

## 1. 西の湖を取り巻く状況と推進会議の考え方について

西の湖は、現存する琵琶湖の内湖で最大の面積を有しており、平成22年3月に旧近江八幡市と旧安土町が合併したことによって、行政区で分断されていた西の湖が一つとなっており、重要な市のシンボルの一つである。

また、平成20年10月にラムサール条約湿地に、令和3年10月には旧安土町側が国の重要文化的景観に追加選定され、西の湖一帯が重要文化的景観に登録されている。

一方で、気候変動や水質悪化などの影響により、アオコの発生やプラスチックゴミ問題なども顕在化している。

そして、西の湖に広がるヨシ原のヨシを活用した地場産業については、かつて盛んに行われていたが、生活様式の変化や後継者不足により衰退してきており、ヨシ原の維持管理も十分に出来ていない状況である。

しかしながら、西の湖は、人間の生活と自然環境が結びついた美しい景観を有しており、旧近江八幡市と旧安土町の中心にある恵まれた資源である。

この地域資源を「守り」「活かす」ため、西の湖を活かした廻遊性向上による地域一帯の賑わい及び魅力の創出に必要な検討を行う。

## 2. これまでの審議内容のまとめ

### 【第1回会議（令和3年8月19日）】

#### 主な議題

- これまでの経過を踏まえた意見交換

#### 主な意見

- 西の湖を通して、地域だけでなく、事業者も活性化出来ると良い。
- 一つのアイデアでなんとかなる場所ではなく、官民双方の考えを擦り合わせ、何をしたいかを議論し、計画を作り、前に進めていけると良い。
- 西の湖全体の環境や景観を守り、活かすということも非常に重要である。
- コロナ以降の社会において、ストレス社会の側面がより強くなっており、賑わいの有り様や西の湖の魅力の視点が変化しているのではないかと。
- 湖や自然という観点から、新しい有り様を社会実験することが重要である。
- 具体的に動いていける取組を行う必要がある。

### 【第2回（令和3年11月24日）】

#### 主な議題

- 各団体からの基本方針策定に向けた提案

#### 主な意見

- トイレや休憩所等の他、西の湖ならではのシンボリックな施設や安心して利用できる施設がないと、当地を訪れて楽しむことも難しい。

- 西の湖の環境を「守る取組」と、特性や魅力を「活かす取組」は相反するものでなく、両方の取組が相乗効果を生み、地域活性化に繋がる。
- 廻遊型の自然歴史観光として、八幡地域と安土地域の自然や歴史を楽しむための整備が出来ないか。
- スローツーリズムとして、水郷めぐりはもちろん、自転車や徒歩による水郷めぐりの陸上版コースの整備（一定距離毎の看板や街路灯の設置等）。
- 賑わいの創出の取組として、カフェやイベント広場などの整備。
- 施設整備となると、法的規制等の問題から、公設民営が基本となるのではないか。
- 西の湖周辺は様々な法的規制があるが、開発等は「何もできない」ということではない。例えば、周辺の農地についても、諸要件を満たせば、農畜産物販売施設等の開発が出来る可能性もある。
- 西の湖の「歴史と自然の調和のとれた風景」という価値を再発見し、市民の共通認識として定着を図るべき。
- 広域観光・環境ルートを整備し、来訪者の知的好奇心を満足させる質の高い観光地として全国に発信し、地域の活性化を図ることを目指すべき。
- これからの社会のキーワードである「カーボンニュートラル」や「SDGs」の社会実験の場としてはどうか。
- 西の湖に関わる多様な主体が一堂に会する組織の立上げが必要である。
- 組織化することで、保全活用の様々な取組が継続性をもって実施出来るようになるのではないか(参考事例：麻機遊水地保全活用推進協議会)。

### 【第3回（令和4年1月19日）】

#### 主な議題

- 西の湖に関わる活動団体の情報共有と組織化について
- 基本方針策定に向けた意見交換

#### 主な意見

- 西の湖には、行政機関や事業者の他に、NPO法人等の民間団体や学校、自治会等の地域団体、ボランティア、個人に至るまで様々な主体がある。
- 活動している団体同士が緊密に情報共有出来るプラットフォームとして、組織体が必要なのではないか。
- 何のために組織化するかという共通目標が必要である。例えば、「100年後に向けて、西の湖を綺麗な状態にしていこう」というような目標であれば、直接協力出来ずとも、様々な関わり方があるだろう。
- 組織化を進めるにあたっては、関わり方にも温度差があるため、緩やかに交流できるような組織が望ましい。
- 西の湖周辺の住民や活動団体の想いも、重要視すべきである。
- 西の湖の良さ、美しさに、さらに磨きをかけつつ、訪れる方々にさり気ない最低限のおもてなしをしていくための必要な整備を順次進めていく。
- 様々な活動や西の湖に対する想いを、将来へ確実に繋いでいくには継続性が重要である。事業として収益化をしていくことやそれを支える仕組みが必要である。